北海道大学附属図書館報

橋

The Hokkaido University Library Bulletin No. 37 Oct. 1974

アメリカの地方都市

附属図書館長　早　川　泰　正

アメリカという国が何によらず巨大な国であることは先刻承知のつもりであったが，今度わずか1ヵ月ばかり旅行してみてその巨大さをいやというほどみせつけられた。もっと正確にいえば，巨大さの上に安住したアメリカ国民の生活のゆとりを痛感したといった方がよい。

千歳を出て約10時間の飛行で着いたニューヨークの二日間は時差による不眠と疲労のうちに終ってしまったが，印象としては出発前の予想とあまり違わなかった。高層ビルの谷間を通行する群集やアル中患者の屯ろする街の一角などは映画のシーンと異ならず，かえって一種の気安さが感じられた。だがこのアメリカの初印象は，ニューヨークを出て次の目的地のアマストに行くバスのなかで早くも急変した。日本でいえばせめて本道の別海地方あたりに相当する広大な自然がいきなり展開し，そのなかを片側4車線以上のハイウェイが縦横に交叉している。アメリカの巨大さが圧倒的に迫ってきた。ニューヨークやシカゴは東京なみの国際都市で，もうアメリカではない，とは出発前によくいわれたが，アクロン，セントルイス，オマハなどの地方都市を回ってみてこの言葉のいみがよく実感された。豊かさの上に安住した住民の落着きはどうであろう。大都会の過密や喧燥もなく，公害や環境保全問題もおこりようがない世界がそこにあった。もっともこれらの地方都市も人種問題とは無縁ではない。欠落した市の中心部を離れて住宅地はドーナツ型に郊外に延びているが，ショッピング・センターや公共施設がどんどん新しく建設されて，生活の便益は完全に保障されている。

アメリカの巨大さは物心両面にわたっているが，それらを真に代表するものはむしろこのような地方都市（人口4，50万程度）の生活であろう。公園，病院，美術館はもとより教会の数とその荘大さなどは人口数に比べて桁違いに大きい。さすがにインフレの波はここにもおし寄せ，石油危機いらい2倍に値上りしたガソリン代を訴える声は大きいが，それでも質問した私が逆に日本のインフレのすさまじさを同情される仕末であった。人種問題は別として，伝えられる核家族化にともなう家庭生活の崩壊傾向などは，旅行者としてみるかぎり，あまり社会問題化していないようにみえた。出生率はかなり高く，子供をつれて家庭サービスに務める若い両親の姿が多くみられた。どうも日本のマスコミはアメリカを神経質に報道するあまり，大都会の一部の動きにのみ目を奪われているのではあるまいか。

いまひとつ印象的であったのは，ディズニーランドを見物したとき，夜のパレードを見ながら見物人全体が最後に America the Beautiful と唱和した光景であった。国民が自国の強大さをこれほど誇らしげに意識していることに驚きを感じたのは私が日本人であるせいであろうか。

◆ 会　議

第71回 図書館委員会

<と　き　昭和49年5月28日(火)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 昭和48年度決算報告について　2. 昭和49年度予算(案)について　3. 昭和50年度概算要求について　4. 報告事項　(1) 第6回国立大学図書館協議会北海道地区協議会について　5. その他

第72回 図書館委員会

<と　き　昭和49年6月29日(土)>
<ところ　附属図書館会議室>

1. 昭和49年度歳出実行予算案について　2. 閲覧個室(第2種)選考について　3. 報告事項　(1) 第21回国立大学図書館協議会総会について　4. その他

第33回 教養分館委員会

<と　き　昭和49年5月21日(火)>
<ところ　教養分館長室>

1. 昭和48年度決算報告について　2. 昭和49年度予算(案)の提出について　3. 昭和50年度概算要求について　4. 昭和49年度図書購入計画について　5. 昭和49年度前期演習室の使用について

第34回 教養分館委員会

<と　き　昭和49年6月18日(火)>
<ところ　教養分館長室>

1. 昭和49年度附属図書館事項別予算配当額表(案)(分館)について　2. 昭和49年度実行予算(案)について　3. 継続購入雑誌の選択について　4. その他　(イ) 閲覧システムの変更について(案)

第35回 教養分館委員会

<と　き　昭和49年7月23日(火)>
<ところ　教養分館長室>

1. 指定図書の購入選定について　2. 参考図書の購入選定について　3. 閲覧方式の変更について

第36回 教養分館委員会

<と　き　昭和49年9月6日(金)>
<ところ　教養分館長室>

1. 閲覧制度について

第24回 北海道地区大学図書館協議会総会

<と　き　昭和49年9月6日(金)>
<ところ　北海学園大学附属図書館>

標記協議会総会は，北海学園大学木田橋館長補佐が議長に選出され議事が進められた。午前は，議題中報告事項とされたものについて，各々関係大学から報告があり，引続き，国，公，私立大学より道内外の図書館界の動向について説明があった。

午後は協議事項の審議に入ったが，その主なものは次のとおりである。① 北海道地区大学図書館受入外国雑誌目録の共同作業について　② 道内大学図書館(北大を除く)所蔵外国雑誌所在目録の作成について

なお，今回旭川医科大学，東日本学園大学，北海道薬科大学の加盟が認められた。

第21回　国立大学図書館協議会総会

標記総会を，去る6月6日・7日の2日間にわたり，文部省より吉川情報図書館課長，雨森大学図書館係長を招き，全国国立大学の館長，部課長，事務長等約180名出席のもとに，北海道厚生年金会館（当番館：北海道大学，北海道教育大学，小樽商科大学）を会場にして開催された。なお，今回より旭川医科大学，筑波大学が会員となった。

総会は，一般経過報告，岸本奨励賞選考委員会報告，各調査研究班報告（① 司書職制度調査研究班，② 図書館機械化調査研究班，③「大学図書館改善」調査研究班）が行なわれ，分科会は第1（予算），第2（人事），第3（奉仕・その他）の3分科会に分れ，各地区提出の議題について活発な討議が行なわれた。

研究集会は「大学図書館と学術情報流通体制」をテーマとして取上げられ，(1) 学術審議会学術情報分科会「学術情報の流通体制の改善について」(2) 大学図書館における学術情報サービス　(3) 大学図書館改善協議会機械化専門部会報告の問題提起があり，討議された。

次いで，総会の決議にもとづいて，次の事項を文部大臣宛要望することになった。

1. 図書館予算の増額について　(1) 図書館維持費の増額について　(2) 図書購入費の増額について　(3) 共同利用図書購入費の新設について　(4) 図書館運営のための最低基準の作成について　(5) 宿日直手当の積算事項の変更と夜間・休日開館手当の増額について　(6) 図書館職員の研修旅費の増額について　(7) 分館長への管理職手当支給と部課長・事務長の管理職手当増額について　(8) 文献複写について　2. 図書館職員について　(1) 図書館職員の増員について　(2) 図書館職員の待遇改善について　(3) 図書館事務機構の整備について　(4) 図書館職員の資質の向上について　3. 図書館近代化について　(1) 図書館情報学総合研究機関の設置について　(2) 学術研究資料館の設置について　(3) 地区学術資料センターの設置について

来年度第22回総会は中国四国地区に決定された。

第48次国立七大学附属図書館協議会

<と　き　　昭和49年9月20日（金）>
<ところ　　東北大学附属図書館>

標記協議会は，文部省情報図書館課沙藤専門員，雨森大学図書館係長の出席を得て，国立七大学の館長，事務部長，課長出席のもとに開催された。提出協議題は次のとおりである。

1. 第3次定員削減について（東大，九大）　2. 地区別に文献複写センターを設置することについて（東大）　3. 図書館業務における時間外開館の位置づけについて（東大）　4. 中央館予算の学内措置について（名古屋大）　5. 中央館の研究図書館としてのあり方について（京大）　6. 大学図書館近代化の一環としての学術研究資料館構想について（東北大）　7. 図書館幹部職員の登用人事について（東北大）

附属図書館「機械化準備班」議事録

第四回　4月10日（火）

文部省：外国学術雑誌総合目録（自然科学欧文編）の新版が電算機処理で編集・作成されるが，これとの関連において，当準備班としてはまず外国雑誌一括購入業務の電算化を対象とすることにした。

第五回　4月23日（火）

前回に引き続き，総合目録の準備調査の要旨ならびに回答（案）の検討を行なった。

第六～第十回　5月7日（火）～11日（土）

コンピュータ入門およびCOBOLによる基本プログラミングからメンテナンスプログラムまで，5日間にわたりビデオテープによる講習会を開催した。

第十一回　6月11日（火）

東大総合図書館の「外国雑誌一括購入業務機械処理報告書」をもとに「事例研究」を行なった。

第十二回　6月25日（火）

前回に引き続き「事例研究」を行ない，一応終了した。

第十三回　7月9日（火）

今回は今まで行なってきた研究会のあり方の反省や，今後の進め方等についての話し合いを主とし，決定事項としては，次回までに一括購入に必要な帳票のデザイン作成の検討を受入掛において行なうことにした。

報告1　COBOL 講習会（富士通），① 基礎コース　7月15～19日，② プログラミングコース　7月22～26日。出席者：柳田，荒木，藤島，宇野，諏訪田

第十四回　8月13日（火）

事務局電算機準備室沢田掛長の出席を得て，前回の決定に基づき，受入掛より外国雑誌一括購入に必要な帳票（7種）の試案が出されその検討を行なった。

第十五～十六回　8月19（月）～20日（火）

大阪大学附属図書館門田参考掛長を講師に招き，本学教育学部司馬助教授の出席を得て，「大阪大学雑誌管理システムの現状と将来」と題して講義を受け，引き続き活発な質疑応答があり，また意見の交換を行なった。2日目の午後は小樽商大附属図書館を見学し，館長より同館の将来構想について拝聴した。

第十七回　9月3日（火）

第十四回研究会で決定されなかった各種コードについて検討を行なった。特に部局コードについては，事務局機械化準備室で使用しているものとの組合わせで考えることとし，事務局側と共同で作成することとした。

第十八回　9月18日（水）

部局コードを作成する場合に予想される問題点を出し，決定する際の検討資料にすることとした。なお帳票のデザインについては受入掛において再検討し，最終的なスタイルを次回までに提示することとした。

◆ 研　　修

昭和49年度大学図書館職員長期研修に参加して

理学部図書掛長　五　十　嵐　政　幸

大学図書館業務に関する最新の知識および技術を習得しその資質の向上をはかる目的で開催されたこの研修会も本年で第6回目を迎えた。

参加者は，国立大学図書館30名，公立大学図書館1名，私立大学図書館2名の計33名であった。会場は図書館短期大学を主会場として，東京大学総合図書館，慶応大学医学情報センター，群馬大学附属図書館，沖電気工業を会場として研修が開催された。

研修内容は過去数年と大差はないようである。主要科目を大別すると次の通りである。

1：大学図書館管理運営論　2：図書館業務の機械化　3：インフォーメーションサービス

1：については，“大学図書館行政”“慶応大学における大学図書館の機構改革の実際例”

“大学図書館の経営管理”についてであるが，講義の中の関心点は大学図書館の機構改革の実例として慶応大学図書館が上げられていた。それは従来の図書館を研究教育情報センターに改めることにより，組織も従来のものを大幅に変更し，パブリックサービス部と，テクニカルサービス部に大きく二分し主な活動として，収書計画の立案と実行，閲覧，情報サービスの向上，収書，整理業務の改善，等があげられていた，これは三田情報センターの例である。また，大学図書館改革のひとつの発想として，機械化とセルフサービスによる図書館の無人化等は，非常に興味のあるものであった。

2：については，“電子計算機の概要とその利用”“図書館業務機械化のためのシステム設計”“図書館業務への機械化の適用”等についてであるが，コンピューターを導入する場合システム設計はどうあるべきか，フローチャートにより繰返し検討すべきであり，機械化対象業務を分析検討すべきであるなど，またコンピューター利用については，基本的な面からの説明で，ハードウェアからソフトウェアまで理論と演習を行なった。

演習は，図書館短期大学でグループごとに分かれ，HITAC-8210 (24 KB) システムを使用し，KWIC 索引の作成から著者名索引の作成まで行ないラインプリンターで打ち出された結果について疑問点の討議をした。また，沖電気工業では ŌKITAC-4500 を使い簡単なプログラムを各々作り実習を行なった。この講義の中で興味をひいたのは，国立国会図書館での JAPAN MARC の活用であった，漢字情報処理システムの開発をし，漢字処理システムのなかでディスプレイによる校正を見たとき，この処理システムが普及されれば図書館のコンピューター化の難問題のひとつである和漢書目録の打ち出しも容易になるのではないかと思われた。なお現在大阪大学，群馬大学，東京工業大学においては，それぞれコンピューターを導入し，実際に各種業務を行なっているため，質疑応答のとき，または共同討議では，研修生から活発な意見や質問が出され非常に参考となった。

3：については，人文・社会科学系，理工学系は東京大学総合図書館で，医・生物科学系は慶応大学医学情報センターにおいて，それぞれの専門分野に分かれ，二次資料の解説，各図書館の参考図書の構成等について講義と演習が行なわれた。私は理工学系に出席したが，少人数のため，ゼミナール方式で講義を受け，具体的な質疑応答などがあり大変有意義であった。

研修期間中には，国立国会図書館，日本科学技術情報センター，慶応大学医学情報センター，東京工業大学を見学し非常に得るところが多かった。

以上研修の概略を紹介し所感を述べたにすぎないが，こういう機会に他の大学の人と実情や業務の諸問題等の意見の交換をしたことは研修中の大きな収穫であった。

第17回北海道地区大学図書館職員研究集会

標記研究集会は，去る8月8日道内の国公私立大学図書館職員約130名参加のもと，藤女子大学が当番で開催され，終始活発な質疑応答をまじえ，盛会裡に行なわれた。個人発表および分科会は次のとおりである。個人発表 (1) 北大附属図書館開架図書閲覧室の状況について (北大　藤島隆)，(2) スライドによる図書館オリエンテーション (札幌大　森高美智子)，(3) 道内異種館間の相互協力 (藤大　鈴木高明)，次いで藤大藤村館長の特別講演の後，「図書館の相互協力」をテーマとして分科会が行なわれた。第一分科会，(1) 札幌医大図書館における相互協力 (札医大　中山純一)，(2) 相互協力・現状と分析 (藤大　大館光男)，第二分科会，(1) 整理面における相互協力活動について (北大　似鳥正吾)，国立教育系大学図書館における相互協力 (北教大　荒川真澄)

資料紹介

昭和49年度 学部共通図書

学部共通図書は，複数部局が共通で利用する資料を当該部局の申込みにより，図書館備付けを原則として図書館予算で購入するものである。今年度申込みのあった資料のうち，予算を勘案して次の資料を購入することとした。

1. Actions chimiques et biologiques des radiations. Annual ed. 16 vols. (16巻未刊), 1958-1973. Masson et Cie.
2. Neue Rheinische Zeitung; Organ der Demokratie. Rep. ed. 2 Bde. (Nr. 1-301). 1973 (1848-1849). D. Auvermann.
3. Доклады Института Географии Сибири и Дальнего Востока. Вып. 1-30. 1962-1971.
4. JCPD Powder Diffraction File. 1973. Inorganic Compounds. Sets 1-15 & Index. A.S.T.M.
5. Троцкий, Л.: Сочинения. Том 2-4, 6, 8-9, 12-13, 15, 17, 20-21. 1925-1927. Гос. Изд.
6. "Meteor" Forschungsergebnisse. Reihe A: 海洋物理・化学篇 No. 1-13, 1966-1973. B: 気象学篇 No. 1-9, 1967-1971. (No. 9 未刊), C: 地質学・地球物理学篇 No. 1-18, 1968-1973. (No. 18 未刊), D: 生物学篇 No. 1-16, 1967-1973. Gebrüder Borntraeger.
7. Thermophysical Properties Research Center Data Series. 13 vols. (11-13 未刊), 1970. IFI/Plenum.
8. Labour Research Department (Books and Pamphlets). 1916-1972. 9 reels. 極東書店.
9. World Atlas of Agriculture. 5 vols. 1973. 新日本図書.

なお，購入を予定していた次の資料は入荷状況により見合わすこととした。

1. National Cancer Institute Monograph Series. Vol. 1-39. 1961-1974.
2. 金属材料データ集 2. 磁性篇 4. 電磁放射篇 5. 固体の量子的性質篇

昭和48年度特別図書購入費で購入した図書 (Ⅱ)

農業集落カード

(北海道，東北関係分)

この資料集の正式名称は「1970年世界農林業センサス農業集落カード」と言い全国142,699集の1つ1つについて，農林省が全数調査を行なった結果を収録したものである。

同時に行なわれた，1970年センサスの農家調査結果および国勢調査結果も併載することによって，単に農業サイドのみでなく，都市化や環境施設の充実度等の視点に立った，農業集落の総合資料カードとしての実質を備えあわせて1960年の数値も収録して，この「農業集落カード」は各集(部)落ごとの戸籍簿，財産台帳とも言うべき詳細なデータ集であります。収

録された内容は，部落内の総世帯数に始まり，就業のしかた，耕地面積，耕地価格，宅地価格，公害紛争の有無，農用機械台数，電話のある戸数，出稼ぎ者数……等々，合計286項目にわたって，ナマの数字を掲載した，まさに“ゆりかごから墓場まで”の完璧な集落のカルテ集といえる。

大東急記念文庫所蔵　物語文学総瞰
(マイクロ・フイルム)

大東急記念文庫は，久原文庫を基にした貴重書の宝庫である。ここには平安朝から鎌倉室町期にかけての多くの古写本，古活字本が収蔵されている。たとえば「伊勢物語」「大和物語」「源氏物語」「住吉物語」「今昔物語」「平家物語」などの古写本，「大鏡」「増鏡」「太平記」「曽我物語」などの古活字本というふうである。国文学研究には欠かせない資料だが，これら物語随筆類95点695冊がマイクロに作製され，頒布されることになった。さきの「江戸文学総瞰」と対をなすもので，不可欠のものである。

◆ 受贈図書

1. 本学教官の著作物

〔本　館〕

文　学　部

佐　伯　有　清　　研究史　広開土王碑

岡　田　宏　明　　THE HOT SPRINGS VILLAGE SITE

法　学　部

遠　藤　博　也　　都市計画法50講＜全条文つき＞

小　川　晃　一　　英国社会における伝統と変化 (下)

工　学　部

加　地　郁　夫　　システム工学

農　学　部

農学部附属演習林　　北海道石狩国野幌森林の植物学的研究

〔分　館〕

法　学　部

小　川　晃　一　　英国社会における伝統と変化 (上)

小　川　晃　一　　教養政治学　　小川晃一・十亀昭雄・荒木俊夫　共著

◇ 人事往来 ◇

新図書館委員

安　田　寿　一　(医学部教授)　49. 5. 20 付

尾　崎　　晃　(工学部教授)　49. 6. 1 付

北海道大学附属図書館報　「楡蔭」　(通巻37号)
1974年10月31日 発行　　発行人　斉　木　一　郎
編集委員　浅野次郎 (長)・横山梅雄・村上　肇・宮部　徹・佐藤忠勝・徳田洋一・石黒克介・似鳥正吾・秋月俊幸・高橋　裕
発 行 所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北8条西5丁目　電話代表 711-2111 (2967)
印 刷 所　文 栄 堂 印 刷 所　札幌市中央区北3条東7丁目　電話代表 231-5560-5561